

Q1 使用についての注意点はありますか？

A 現在、口腔内にトラブルがありますか？ あれば、動物病院で口腔内の治療をお受けください。
しっかりした原因治療をした上で、ナチュラル・クリンforオーラルを併用することで、成分の大豆油脂脂肪酸の作用により、歯垢や歯石の再付着を抑制し、口腔内の細菌数を減少させ、口腔内の環境の維持が期待できます。

Q2 どのくらいで口臭が軽減されますか？

A 朝晩目安3滴ずつ、1日2回口腔内に投与し、洗浄してください。
目安として4～5日で軽減し、かすかな臭いは残りますが、半月から1ヶ月で、ほとんど口臭は軽減されます。
※強い臭い場合は、朝晩3回こまめに投与してください。

Q3 歯石はなくなりますか？

A 歯石を除去する作用はありません。
しかし、動物病院で歯石を除去後に使用していただくと歯垢を洗浄し、歯石の再付着を抑制します。

Q4 猫を多頭飼っています。効果にばらつきがあるのはなぜですか？

A 口腔内のトラブルの要因を抑えることはできますが、組織を再生する力はありません。
組織の再生力は、動物が本来持っている個々の再生力に依存していると思われます。
各々の猫ちゃんによって差があるのはその再生力の差であるかもしれません。
なので、手指や歯ブラシで組織を刺激して血行を改善することで、組織の再生が促されると思われます。

Q5 原料は「大豆脂肪酸」との事ですが、大豆アレルギーの問題はどうなんですか？

A 大豆アレルギー、残留農薬、遺伝子組換えは全て大豆タンパクに含まれ、大豆油脂脂肪酸を精製する時に大豆タンパクを除去するために、一切問題ありません。
※遺伝子組換え大豆は使用していません。

ナチュラル・クリンforオーラル投与前後における犬の口腔内菌数測定結果

減少率
94%

試験方法 犬2頭に1週間、朝タナチュラル・クリン for オーラルを滴下し、滴下前後(最終滴下後2時間)の好気性及び嫌気性の1スプツ当たりの総菌数を比較する。
株式会社京都動物検査センター データ

犬番号	検査部位	好気性菌数(CFU/スプツ)		検査部位	嫌気性菌数(CFU/スプツ)	
		pre	post		pre	post
1	右上	2.1×10^7	4.0×10^2	右下	8.8×10^7	2.1×10^2
	左下	6.8×10^6	9.3×10^5	左上	5.5×10^6	1.1×10^2
	平均	1.4×10^7	4.6×10^5	平均	4.6×10^7	1.6×10^2
2	右上	3.9×10^6	1.9×10^5	右下	4.4×10^6	4.1×10^5
	左下	1.2×10^7	2.8×10^5	左上	1.6×10^7	5.2×10^4
	平均	8.0×10^6	2.4×10^5	平均	1.0×10^7	2.1×10^5
合計平均		1.1×10^7	1.4×10^5		2.8×10^7	1.0×10^5

用途・効果

- 動物の口腔内の洗浄・抗菌・消臭。
- 継続的に使用することで、成分の大豆油脂脂肪酸が作用して、歯垢や歯石の再付着を抑制し、細菌を減少させ、口腔内環境の維持が期待できます。
- 口腔内のトラブルや口臭の原因となる要因を抑えます。
- スクレーピングをして、歯石を取り除いた後に使用することで、より一層の効果が期待できます。
- 歯の表面に大豆油脂脂肪酸がコーティングされ、歯に光沢を与え、歯垢や歯石が付着を抑制します。
- 口腔内の粘膜を保護します。
- 歯茎にマッサージ効果を与えブラッシングする必要はありません。

安全性

主原料の大豆油脂脂肪酸は、安全性試験(急性毒性試験・皮膚刺激性試験・目刺激性試験)に於いて、安全であることが確認されています。
(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 獣医学専攻実験動物学教室データ)

品名

ナチュラル・クリンforオーラル(愛玩動物用口腔内洗浄液/犬猫用)

成分

精製水、大豆油脂脂肪酸、トレハロース、グリセリン、増粘剤、ステビア、水溶性コラーゲン、ヒアルロン酸Na、茶葉エキスを

容量

20mL (1滴約200回分)

原産国

日本

使用方法

- 朝晩目安3滴ずつ、1日2回口腔内に投与し、洗浄してください。(1日目安6滴、1ヶ月約200回分)
- ※動物の大きさ、状態などによって、回数、使用量、使用間隔を調整してください。
- ※特長(消臭)を早く実感して頂く為に、最初は朝昼晩とこまめに使用することをお薦めします。

使用上の注意

- 他の口腔製品と併用しないでください。
- 使用後、健康状態に異常がみられた場合は使用を中止し、獣医師の診断を受けてください。

保管及び取り扱い上の注意

- 直射日光、高温多湿を避け、室温で保存してください。
- 天然原料につき沈殿物が生じたり、濁る場合がありますが、品質には問題ありません。

井直商事株式会社

〒659-0012 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町4番7-305

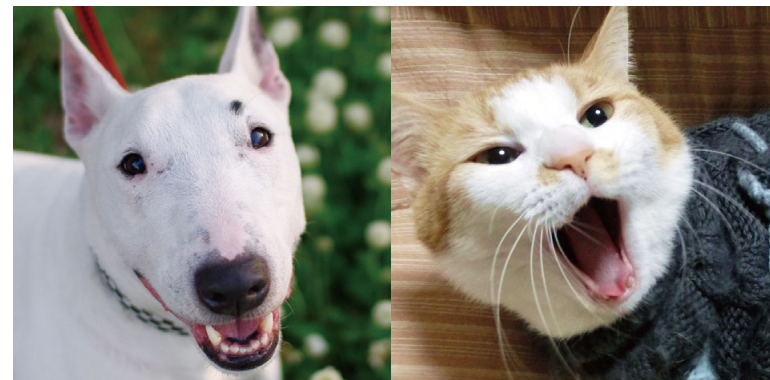
TEL 0797-23-2663

<http://inaocorp.co.jp/ws/>

<http://www.facebook.com/inaocorp/>

[2017.01]

愛犬・愛猫のデンタルケア、
気になりませんか？



健康の基本は、まず口腔内のケアから!!



動物病院専用

NATURAL
CLEAN for oral

— 動物用口腔内洗浄液 —
ナチュラル・クリン
for オーラル

inao corporation

NATURAL
CLEAN for oral

— 動物用口腔内洗浄液 —

ナチュラル・クリン for オーラル

愛犬・愛猫の口腔内の

抗菌・洗浄・消臭に。日常のデンタルケアに。



とりあえず、ナチュラル・クリンfor
オーラルを使ってください！

千里ニュータウン動物病院(大阪府) 佐藤 野恵 先生

先生
のお声

正直なところ最初は本当に効くのだろうか…と疑っていました。大豆油脂肪酸の作用により口腔内の細菌が減少することから、口臭が気になっているワンちゃんに試してもらいました。その結果、口臭が軽減したと喜ばれて、逆に驚き、原因菌や歯垢の付着を抑制する効果を実感しました。また、少量の滴下ですむのでネコちゃんにも投与しやすく、重度の口内炎症例では見た目に大きな変化がなくても、効果が維持できることで食欲が長く安定する傾向がありました。手軽にできるので、飼い主さんが高齢の方やデンタルケアの第一歩として、またスケーリング後の歯周病予防や歯石の再付着の抑制のために、「まずはナチュラル・クリンforオーラルを使ってください!」と自信を持ってお勧めでき、継続していただけることが多い商品です。

口内のケアのために
毎日使っています！

大阪府 ななちゃん(オス11才)



ねこちゃん
飼い主
さまの声

愛猫の歯茎が赤くなり、動物病院で診てもらったら、猫は人間の虫歯のように見かけで進行が確認できるわけでもなく、歯ぐきの中で悪化し、他の歯に進行していくとのことでした。以前、ものすごくタチの悪い症状で、愛猫を苦しませてしまった経験があるので、すぐに1本、拔牙をしました。ところが、3ヶ月後反対側の同じ位置の歯とキバの付け根が赤くなってきました。その時「ナチュラル・クリンforオーラル」を勧められ、治療と並行しての使用と、治療後の口内のケアのために毎日使っています。今のところ、再発もなく健康に過ごせています。商品に感謝しています。

多くの飼主さまに
継続使用してもらっています。

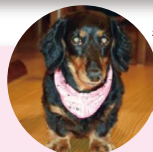
みゅう動物病院(岩手県) 院長 須藤 洋 先生

先生
のお声

当院では、「ナチュラル・クリンforオーラル」を5年前から取り扱っています。治療と併用したり、治療後のケアとして多くの飼い主さまに継続使用してもらっています。ナノ化した大豆油脂肪酸の作用である洗浄力や口腔内の細菌数を減少させることによって歯垢や歯石の再付着を抑え、口臭の軽減や治療後の口腔内環境が維持できていることを実感しています。効果を定める一つの要因として考えられるのが、飼い主さまの熱心さ、一生懸命さです。こちらの指示通り1日2〜3回、毎日きちんと使用している飼い主さんと、気の向いた時に使用する飼い主さまでは効果が全然違います。熱心な飼い主さまの方がそれなりに効果を上げています。

使い始めて3年、口臭が
気にならなくなりました！

神戸市 ういろちゃん(ミニチュアダックス オス13才)



わんちゃん
飼い主
さまの声

使い始めて3年になります。以前の我が家のワンちゃんの口臭は、ヘド口のような臭いがし、顔をそむけないと抱っこできないほどの悪臭でした。獣医さんの診断は、全身麻酔を行う歯石除去で、一年に一度は続けなければいけないとの説明で、高齢の愛犬には体力的にも負担をかけるので悩んでいましたが、「ナチュラル・クリンforオーラル」を進められ、だめもとで使用することにしました。最初は朝昼晩の3回使用、2〜3日で口臭は軽減し、1週間でほぼ臭いがしなくなったのには、びっくりしました！ それからは、朝・晩の継続使用で、現在、口臭はせず、本当に助かっています！

犬猫のデンタルケア

南大阪動物医療センター(大阪市) 病院長 吉内 龍策 先生

犬猫の日常のデンタルケアとして、歯磨きが最も効果的であることは言うまでもありません。けれども歯磨き習慣の定着という話になると、犬ではボチボチ、猫ではサッパリというのが実感ではないでしょうか。

それにとって代わるものとして、「ナチュラル・クリンforオーラル」の口内投与が脚光を浴び、その洗浄力と抗菌作用から、大きな反響を呼んでいることはご存知の通りです。

一方、歯科療法として、犬では、定期的なスケーリングが必要不可欠ですが、必ず歯石は再付着し、目につくようになるまでの期間が短いほど、飼主の次のスケーリングのモチベーションは下がってしまいます。

また、猫では、慢性歯肉口内炎が、その診断基準も明確ではなく、病理発生も依然として不明のままで、確立された治療法はなく、対症的、経験的に様々な治療が実施されているのが現状です。(下表)

口腔内 清浄化	● スケーリング ● 抗生剤(クリンダシン、ピプラマイシン、メトロニダゾール、コンベニアなど) ● ラクトフェリン ● クロルヘキシジン ● 各種酵素(リゾチーム、ラクトペルオキシダーゼ、グルコースオキシダーゼなど)
抗炎症	● ステロイド剤 ● 酢酸メゲステロール ● 抗炎症脂質(アンチノールなど) ● バイオフォトジェニック(ソフトレーザー)
免疫抑制	● ステロイド剤 ● 免疫抑制剤(アザチオプリン、クロラムブシル、シクロスポリン、レリミゾールなど)
鎮 痛	● NSAIDs(メタカム、オンシオルなど) ● 弱オピオイド鎮痛剤(ブトルファノール、ブプレノルフィンなど) ● バイオフォトジェニック(ソフトレーザー)
その他	● 炭酸ガスレーザーによる検診部位の蒸散 ● 放射線療法 ● 全臼歯抜歯、全顎抜歯 ● インターフェロン

そんな中、「ナチュラル・クリンforオーラル」をスケーリング後や歯肉口内炎治療に追加することで、治療効果の維持が可能になること分かってきました。

ナノ化した大豆油脂肪酸の口腔内洗浄液は、成分の大豆脂肪酸の作用により、歯垢や歯石の再付着や口腔内細菌数を減少させることで口腔内清浄作用を発揮し、日常の犬猫の歯科療法の効果をグレードアップできます。日常のケアとして、併用療法として、「ナチュラル・クリンforオーラル」は心強い味方です。